

第12回当別町史編さん委員会 会議概要

日 時：令和4年9月29日（木） 午後2時

出席者：（事務局）長谷川総務部長、佐藤総務課長、五東主幹、村田係長、藤原主査、
石川社会教育課長、倉田歴史研究専門員、(株)須田製版担当者
（委 員）竹田委員長、松尾副委員長、白井委員、野口委員、大口委員、曾川委員、
大畑委員

1 開 会 佐藤総務課長

2 挨拶 竹田委員長

3 議 事

(1) 町史の発行部数について

事務局より、近年市史や町史を発行した道内の市町の発行部数等の状況を報告し、現時点での事務局の案を提示した。

道内の市町の状況を踏まえた事務局案

・配布部数は400部程度。配布先としては、道内の市町村、道内の大きな図書館、道内の大学、道や国の関係の団体、町内の学校、農協、土地改良区等。

・販売部数は300部から400部程度。販売価格は5,000円程度。

次回の委員会で、発行部数、販売価格等について協議することとした。

(2) 町史原稿の校正について

主に以下のとおり協議を行った。

【第1部 第2章 地形・地質・土壌 初校】

○第1節 地形

・山と川が織りなす地 7行目「石狩丘陵は、石狩川低地の背後の地域で、主に当別町南部に相当する」とあり、高岡の地域を指していると思うが、当別町南部という表現に違和感がある。

・山と川が織りなす地 9行目「当別町内を流れる最大河川は、石狩川である。」とあるが、石狩川は町内を流れているという表現で良いのか。

→ ビトエ中島の飛び地があり、現実そこで生活していた人がいたわけだから、町内という表現で良い。

→ 違和感がある。当別町に接するという表現なら良い。

⇒ 検討する。

○第2節 地質

・様々な地層が分布 3行目 「樺戸山地は白亜系、古第三系および新第三系の地質

系統から」とあるが、図2-5と合わせるなら「樺戸山地は中生代、古第三系及び新第三系の地質系統から」となる。

⇒ 確認する。

・図2-14が位置関係などわかりづらい。

⇒ 川の位置を書き込めるか確認する。

・14ページに「伊達山層は、温暖な気候が示唆される」とあり、15ページに「石狩高岡層は、冷涼な気候が示唆される」とある。さして離れていない地域で逆のことを書いているのは疑義が出る。記載の必要があるのか。

○全体を通じて

・ここまで専門性を求める必要があるのか。

・内容が難しいものなので、簡略化して書いてもらえたら。

・当別町の地質、地形の成り立ちについて学術的に確かなものになっており、大変評価している。町としてしっかり文章にして残しておくべきである。

⇒ 要点を残しながら、読みやすい記述となるよう調整が可能か確認する。

【第2部 第1章 当別町の遺跡 初校】

○はじめに

・11行目「たどってみたい」とあるが、町史において、こういう表現はするのか。

⇒ 個人が執筆しているような表現は避ける。修正する。

○第1節 遺跡と出土遺物

・表1-1が表にしているのはとても良いが、この表を時代順に並べ替えるか、当別の遺跡ではこの時代に何が出てきて、どんな人が生活していて、という流れで表現すると、頭に入りやすい。

⇒ 検討する。

・遺跡調査の歴史 17行目「述べてみたい」とあるが、町史において、こういう表現はするのか。

⇒ 個人が執筆しているような表現は避ける。修正する。

○第2節 各地区の遺跡

・伊達山1遺跡〔No.1〕 6行目「建物跡1軒が検出され、」とあるが、確認ではなく、検出というのは学術的な表現であるのか。

⇒ 確認する。

○第3節 石狩低地帯の歴史と当別町の遺跡

・「北海道における当別町の占める位置」という小見出しと本文があまり合致していないように感じる。

⇒ 修正する方向で検討する。

・北海道における当別町の占める位置の記述は、第3節の中では後の時代の話をしている。歴史順に記述したほうが良いのでは。

⇒ 記述の順番を変更する。

・擦文文化の竪穴群 38行目「竪穴跡の確認調査が行われ、分布図調査に加えられることが期待される。」とあるが、筆者の期待のような記述は町史に必要なか。

・第3節について、ここまでのボリュームが必要なのか。北海道の歴史の説明の記述が多く、町史にここまで必要なのか。

⇒ 検討する。

4 その他

・今回渡す原稿は、以下のとおり。

第3部 第7章 文化と宗教

36ページ分

次回会議の日程を10月下旬とし、閉会した。